

機械・電気・情報・材料分野における進歩性 ～知財高裁判例を通じて学ぶ進歩性主張のコツ～

- ◆争点をパターン別に分類し、知財高裁の判示内容を学べるので、自身が実際に担当する案件の主張のポイント・反論のコツをわかりやすくつかむことができる!
- ◆生成AI関連発明の進歩性を出すコツ、面接審査の有効活用法、米国非自明性をも意識した対策等についても解説

■開催日時

2025年 7月 25日 [金]

時間14:00～17:00(途中休憩有り)

★オンデマンド視聴可能

申し込んでいただいた皆様には、セミナー終了後にセミナーを録画した動画(2週間閲覧可能)の閲覧用URLをお送りいたしますので、セミナー当日に都合がつかない方も受講可能です。

特許権利化段階、異議申立・審判段階、訴訟段階いずれのステージにおいても進歩性は、特許実務家にとって避けることのできない問題であり、「容易に発明できたか否か」は、キャリアを終えるまで追求すべき永遠のテーマです。

この進歩性判断に関しては技術分野を特定した上で争点をパターン別に分類し、知財高裁の判示内容を学ぶことで、自身が実際に担当する案件の主張のポイント・反論のコツをつかむことができます。

本セミナーでは機械・電気・情報・材料分野に範囲を限定した上で、近年の事例を含む知財高裁の典型事例・判示事項をパターン別に解説し、実務に役立つ反論のコツを学びます。

あわせて中間処理時の特許強化方法、近年ビジネス利用が急速に広まっている生成AI関連発明の進歩性を出すコツ、面接審査の有効活用法、米国非自明性をも意識した対策等についても解説いたします。

●講 師：河野特許事務所 所長・弁理士 河野 英仁 氏

●会 場：Zoomを使ったオンラインセミナー